

公益社団法人日本山岳ガイド協会

＜登山ガイド育成学校＞ 開校



開校 2022年4月28日

1年間54日間の机上・実技講習を経て2つの資格が取得できる

4月から翌年3月までひと月1回から2回のペースで研修を実施。

日本山岳ガイド協会認定・登山ガイドステージⅡ資格

国際マウンテンリーダー連盟認定・IML ハイキング・トレッキングガイド資格

54日間の講習を規定の水準で修了したのち、資格が認定されます。

応募基準:満18歳以上であること。

健康な体躯、体力があること。

講習に必要な登山装備を所持していること。

受講費 1年間 合計54日間 898,000円 (分割払有)

申込み受付期間 2022年3月15日より4月15日まで (当日消印有効)

定員: 12名 実施最少人数 5名

講習プログラム内容

机上研修

1. ガイド概論
2. 日本近代登山史、ガイドの歴史
3. 登山用具及びガイド装備に関する知識
4. ガイド商品の企画・計画立案の方法及び注意点
5. 読図・地形解説
6. 歩行技術
7. 岩稜登高技術
8. ガイディング・引率技術・ガイドのロープ技術
9. 危急時対応技術
10. 野外救急法
11. 安全管理技術
12. 自然観察解説技術
13. 積雪期対応技術
14. リスクマネジメント
15. リスクアセスメントの方法
16. 搬出・救助技術
17. 野営・ビバーグ技術
18. ガイド業務に係る法律知識
19. ガイド業務における倫理
20. 基礎的知識（自然環境に関する事柄）
21. 基礎的知識（自然科学に関する事柄）
22. 登山のスポーツ科学の基礎知識
23. ガイドの健康管理
24. 山の天気（気象に関する基礎知識）
25. 農山村に関する基礎知識（歴史、文化）
26. 雪山の安全管理（雪崩対策）
27. ガイド事業展開の実務概論
28. ガイドの営業・広告戦略概論
29. 外国語研修
30. ガイドのコミュニケーション論
31. ガイドの異文化コミュニケーション論
32. 觀光文化に係る知識
33. エコツーリズムとサスティナブルツーリズム
34. ネイチャーツーリズムの考え方

実技研修

1. 登山道の歩行とガイディング基礎
2. 読図基礎
3. 歩行時における安全対策
4. 無関積雪期のルートガイディング
5. グループの統率とガイドとしてのリーダーシップ
6. サバイバル技術、ビバーグとツェルト
7. 応急処置と救助の実習
8. 天気の見方 観天望気の実習
9. 山中2泊3日の山行の計画立案と実施（積雪期も含む）
10. 山岳環境の知識と啓発実習
11. 岩稜、岩場の通過時の安全対策（ロープワーク）
12. 沢の渡渉時の安全対策
13. 積雪期登山のルートファインディング（残雪期）
14. 雪洞ビバーグ
15. スノーシュー使用時の安全対策
16. 低体温症、凍傷の防止
17. 山中1泊2日の山行の計画立案と実施（積雪期も含む）
18. 雪崩地形の把握実習
19. 雪崩対策基礎
20. 積雪期の安全配慮技術
21. 低山、里山の解説主体のガイド
22. 岩稜、沢登りなど難路のガイド
23. 中級山岳のガイド
24. 高山帯のガイド
25. ナビゲーションとオリエンテーション技術
26. 自然ガイド 四季を通じてのガイド
27. 自然に特徴のある里地、里山でのガイド
(湿地、特異な植生、特殊な地質、地形など)
28. 地域の歴史、地誌、風俗、民俗などのガイド
29. ファーストエイド実習

※受講費には、研修場所までの交通費、研修地での宿泊費、食費、その他個人的支出は含まれていません。

※受講費には、研修で使用するテキスト、配布される資料以外の登山装備、登山に必要な衣服、ロープウェイ等の利用費用は含まれていません。

主管：公益社団法人日本山岳ガイド協会

登山ガイド育成学校委員会

登山ガイドステージ II 資格とは

国内で四季を通じて整備された登山道において登山ガイド行為を行う事ができます。
但し、スキーガイド分野は別にスキーガイド資格を取得する必要があります。

<活動エリア>

無積雪期の一般登山道。登山地図の実線で示された

コース。破線、難路と示された登山道は除く。

沢登りはできません。

積雪期は、森林限界を越えないで、ロープウェイなど冬季も開設されている施設から2~3時間の日帰りできる範囲となります。

国際マウンテンリーダー ハイキング・トレッキングガイド資格とは

国際マウンテンリーダー(IML)ハイキング・トレッキングガイド資格(以下IMLと表記する)とは、「THE UNION OF INTERNATIONAL MOUNTAIN LEADER ASSOCIATION」(略称UIMLA:ウイムラと発音)の定める規定に従って、所定の団体により認定された「INTERNATIONAL MOUNTAIN LEADER」を示す日本語です。

●職能範囲

国内においては主たる職能資格の範囲に準じるが、国外においてはIML資格が規定する職能範囲に限られます。

国外ただし UIMLA 正会員国および地域

国外においての国際マウンテンリーダー(IML)ハイキング・トレッキングガイド資格の職能範囲は、UIMLAのStandardにより規定される。また活動する地域における法律・条例などを遵守しなければなりません。

IMLは、無積雪期、積雪期も含めて四季を通じてハイキング、トレッキングを主体としたガイド、サポート、講習を行うことができます。

下記の活動は職能外となるため業務外となります。

1) 氷河上における活動

ただし、公式に認められたマーキング済みルートをショートロープやハーネスを用いず横断する場所に限定して通ることが可能です。

2) ショートロープやアルパイン用具(ピッケル、ロ

ープ、アイゼン)を使用する登下降のある行動。

3) スキー・スノーボードを使用する活動。

スノーシューの活動は職能範囲となります。

<活動エリア>

国内

主たる資格の職能に準じる。また、スキーガイドなどの付帯資格を有しているものは、有している付帯資格によって定められた活動範囲となります。

国外

UIMLA正会員となっている国および地域において、IMLの職域(ハイキング・トレッキング)での活動ができます。日本山岳ガイド協会によって発行され、有効なUIMLA資格証(Carnet)を携帯することが義務付けられています。

UIMLA正会員および準備国 本部 スイス

アンドラ、アルゼンチン、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、スイス、チェコ、ドイツ、スペイン
フランス、イギリス、クロアチア、イタリア、日本、北マケドニア共和国、オランダ、ペルー
ポーランド、ルーマニア、スロベニア、スロバキア 21
か国

準備国

ボリビア、チリ、ギリシャ、ハンガリー、ノルウェー、
ネパール、スウェーデン 7か国



□ 講習スケジュールについて

詳細は、都度ごと受講者にメールで案内されます。実施場所、集合時間、場所などは、メールにてご案内いたします。

受講生には、講習ごとにシラバスが配布され、シラバスに従った内容で講習が進みます。いずれの課題も複数回念入りにこなします。

本登山ガイド育成学校で使用される教本。

登山ガイド育成学校参加条件書　必ずお読みください

申込書に必要事項をご記入の上、登山ガイド育成学校事務局へ必ず郵便でお送りください。同時に、受講費を下記指定の銀行口座までお振込みください。

送り先 〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6-9 丸藤ビル2階
お振込銀行口座 三菱UFJ銀行 四谷支店 普通 1119029
名義人 公益社団法人日本山岳ガイド協会

受講応募条件

公益社団法人日本山岳ガイド協会の登山ガイドを目指す方で団体行動の取れる方で下記の条件を満たす方ならどなたでも参加することができます。

- ・満18歳以上であること。
- ・健康な体躯、体力があること。
- ・必要な登山装備を所持していること。

受講費について

受講費には講習費用、共通テキスト、講師の配布する都度ごとのレジュメ、講師の諸経費、共同装備使用料などが含まれています。受講生が個人で使う机上講習会場、実技講習会場までの交通費、食費、宿泊費は講習費に含まれませんのでご注意ください。

・受講費の納入

原則一括払いになります。

分割払いも可能です。分割払いは、次の2つの方法があります。

1) 2回払い。受講費は、前期と後期の2回に分けて分割で支払う方法です。前期納入分は、468,000円

後期納入分は、436,000円

2) 4回払い。1期から4期に分けての分割払い

1期 265,000円

2期 235,000円

3期 225,000円

4期 205,000円

分割払いの方法、納入期日につきましては、別紙資料をご確認ください。

お支払方法は、すべて銀行振り込みを通した現金払いとなります。クレジットカード等のご利用はできません。

講習開催の変更、中止

実技講習の参加者が3名に満たない場合、講習の実施を中止にさせていただく場合があります。その場合代替え講習を行います。講習実施ルートや行動時間、解散時間などは、天候や登山道の状況の変化により変更する場合もございます。その場合、代替え日程を設け講習を行います。講習の都度ごとに詳細な装備リスト、日程、宿泊地などをご案内いたします。

宿泊

講習時の宿泊は、指定の宿泊施設（山小屋、麓の旅館、避難小屋、テントなど）を利用しそれ以外の施設は原則使いません。必ず指定の宿泊施設をご利用ください。

食事

実習登山の場合は、各自必要日数分の行動食をご用意ください。(火を使わずに簡単に食べられるパン類、菓子類、おにぎり、飲み物等)テント泊の場合は、所定の食糧を準備していたく場合があります。机上講習等施設利用の場合は、別途ご案内いたします。

注意事項と安全対策および補償について

本登山ガイド育成学校は、講習実施時において集合後および講習中から解散までは団体行動を原則としています。

登山は自然の中での行為であるために危険が伴います。安全の確保については、講師が最大限の注意を払い万全の体制で臨みますので、講師の注意には必ず従うようお願いします。また、参加者の皆さまも自己の安全には十分に注意するよう心がけてください。

講習時は、登山傷害保険を掛けています。補償内容は、次の通り

死亡後遺障害	1,500万円
入院日額	4,500円
通院日額	2,340円
賠償責任	3,000万円
救援者費用	100万円

となっています。それ以上をご希望する場合は、別に任意での保険の加入をお願いいたします。

取得できるガイド資格について

本登山ガイド育成学校全54日間を修了すると公益社団法人日本山岳ガイド協会認定の登山ガイドステージIIと国際マウンテンリーダー連盟登録の国際マウンテンリーダー・ハイキング・トレッキングガイド資格を得ることができます。いずれの資格取得にも全54日間の講習に参加し、一定の水準の成績を修める必要があります。

水準に達した受講生は、二つの資格を付与されます。いずれの資格も入会金および年会費が別途必要となります。ガイド活動を行うために当協会正会員団体に所属し、所属団体を通じて当協会正会員となり会員証(認定証)を受ける必要があります。

また正会員団体の紹介につきましては、講習中盤でご案内いたします。

※1年度内に講習を受けることのできない科目、講習が発生した場合、次年度の同一科目、講習に追加費用を払い受講することができます。2年間で全54日間のプログラムを修了することで、資格を得ることができます。

登山ガイド育成学校入校の取り消しについて

登山ガイド育成学校開校時に入校を取り消された場合、納入した受講料は講習参加を何らかの事情で取りやめる場合は、必ず事務局まで業務時間内(10:00~17:00 土日祝を除く)にご連絡ください。取消料として納入額の10%をお支払いいただくことで入校を取り消すことができます。

第1回講習の終了後は、取消ができません。また、一旦納入いただきました受講料は払い戻しができません。

次年度の同等の講習に参加することができます。

お問合せ・お申込

●お問い合わせは、メールでお願いいたします。

 school@jfmgag.com

〒160-0008

東京都新宿区四谷三栄町6-9 丸藤ビル2階

公益社団法人日本山岳ガイド協会

登山ガイド育成学校事務局

登山ガイド育成学校陣容紹介

講師陣は、ガイド育成に豊富な経験を持つプロフェッショナルが、現場ならではの貴重な体験をあなたに直接伝えながら指導にあたります。

また、机上講習の授業を担当する講師も全て現役のガイドばかり。専門的な知識・技術はもちろん、プロとして必要な心構えも伝えます。

学校長 上野 真一郎 日本山岳ガイド協会担当理事

副校长 宮崎 孝 日本山岳ガイド協会試験・研修委員長

事務担当 河野 格

○専任講師紹介

菅野 由起子 研修講習企画立案担当

川崎 拓兵 実技講習担当

平木 順 机上講習担当

○実技担当講師

杉本 晴美

山下 勝弘

三上 浩文

大嶽 和彦

そのほか多くの講師、実技試験検定員

ガイドとしての基盤を固める

本登山ガイド育成学校では、職業ガイドを目指す基礎教育、専門教育はもちろんのこと、ガイドとしての人間的力量をアップする教育指導をカリキュラムに盛り込んでいます。全部講習を修了することによってガイドとしての基盤を固め、速やかにプロとして活動できるように育成いたします。

また、本登山ガイド育成学校の講習と同時にガイドの実践訓練として OJT の取り組みとしてガイド経験を積む 15 日程度の予定を準備しています。OJT と合わせて個人山行としてのチャレンジも 30 日程度取り入れてください。そうすることにより、より完成されたガイドへと近づくことを確信いたします。

本登山ガイド育成学校は、即戦力としてのガイド育成を目的としています。ガイド資格認定後、速やかに職業ガイドとして業務に就けるようさまざまなガイド事業者にガイド業務の斡旋の手助けをいたします。

＜育成カリキュラムと日程＞

	机上講習	実技講習	開催地
2022 年 前期プログラム 全 27 日間			
第1回 4月 28~30日 2泊3日	開校式 オリエンテーション ガイド概論 1, ガイドとは 2, 日本近代登山史、ガイド史 3、登山用具及びガイド装備に関する知識 34,ネイチャーツーリズムの考え方 32,観光文化に関わる知識	登山実習入門編 (登山ガイド、自然ガイド体験) ※靴の履き方、ザックのフィッティング、 パッキング、ウェアのレイヤリング ※歩き方の基本（歩行技術） ※ガイド装備の使用法 1,登山道の歩行とガイディング基礎 2,読図基礎 3,歩行時における安全対策 4,無積雪期のルートガイディング 21,低山、里山の解説主体のガイド技術 26,自然ガイドの四季を通じて解説技術 28,地域の歴史、地誌、風俗、民俗などのガイド	上高地
第2回 5月 6~8日 2泊3日	ガイドの基礎的知識 20 基礎的知識（自然環境に関する事柄） 21 基礎的知識（自然科学に関する事柄） 25 基礎的知識（農山村の歴史・文化に関する知識） 5、地形図の読図・地形解読 基礎1 33 エコツーリズムとサステイナブルツーリズム	ガイド登山の企画立案と実行 自然解説技術（基礎編） ※ガイド登山のテーマの決め方及び自然解説の技術について ※読図実習 1, 2, 3, 4, 5, リーディング 21,26、28	西上州 荒船山 兜山
第3回 5月 21~22日 1泊2日		沢登り体験実習 ※登山ガイドの職能を越えた体験をする。 12,沢の渡渉時の安全対策 22,岩稜、沢登りなど難路のガイド技術 24,高山地帯のガイド技術	静岡・安倍奥 山伏西日陰沢
第4回 6月 4~5日 1泊2日	ガイドのリスクマネジメント 15 リスクアセスメントの方法 8 ガイディング・引率技術 10 救急法 11 安全管理技術 1, 2 16 搬出・救助技術 22 スポーツ科学の基礎知識 1 22 スポーツ科学の基礎知識 2（ガイドの健康管理） 24 山の天気（気象に関する基礎的知識）		長野県
第5回 6月 18~20日 2泊3日	8、登山ガイドの使うロープ技術の基礎 1 および 2	残雪期の登山実習 残雪期における注意すべき点 雪上技術（歩行技術） 岩稜登高技術（別山の岩場） 1, 2, 3, 4 8, 天気の見かた 観天望気の実習（春、夏、秋） 11, 岩稜、岩場の通過時の安全対策（ロープワーク）	北アルプス 立山周辺

		13.積雪期登山のルートガイディング(残雪期) 20. 積雪期の安全配慮技術 23.中級山岳のガイド技術	
第6回 7月2~3日 1泊2日	ガイドの営業業務関連知識 18 ガイド業務に係る法知識 19 ガイド業務における倫理 27 ガイド事業展開の実務概論 28 ガイドの営業・広告戦略概論 12 自然解説技術の基礎 17 野営・ビバーク技術 9 危急時対応 15 リスクアセスメント 14 保険関わる知識（リスクマネジメント） 4 プランニングとロジステックス（計画立案）		東京
第7回 7月16~18日 2泊3日		夏の北アルプス縦走（テント泊） 高山帯のガイドにおける安全管理 観天望気 テント利用の方法を学ぶ 食糧、装備などのロジスティックス 1, 2, 3, 4, 5, 24	新穂高～双六～ 槍ヶ岳～上高地
第8回 8月6~7日 1泊2日		岩稜体験 岩稜登高技術（西穂高の稜線） 11、岩稜、岩場の通過時の安全対策（ロープワーク） 23.中級山岳のガイド技術	北アルプス 西穂高岳周辺 独標～8峰付近
第9回 8月20~21日 1泊2日		初歩の沢登り体験 沢登りのリスクを意識する 2、 6、サバイバル技術 ビバーグとツェルト 12、沢の渡渉時の安全対策 22、岩稜、沢登りなど難路のガイド技術 23、中級山岳のガイド技術	奥秩父・ナメラ 沢～雁坂峠 小屋泊 or ツェルト泊（ビバーク）
第10回 9月3~4日 1泊2日		初歩の岩登り体験 ロッククライミングの基礎 7、応急処置と救助の実習 11、岩稜、岩場の通過時の安全対策（ロープワーク） 22, 23	山梨・三ツ峠
第11回 9月17~19日 2泊3日		中央アルプス クラシックルート聖職の碑コース 1, 2, 3, 4, 5, 8, 24	木曽駒 桂小塙～鍾馗の頭～木曽駒～千畳敷 もしくは、ピストン

	机上講習	実技講習	開催地
2022年 後期 プログラム 全27日間			
第12回 10月7~10日 3泊4日		登山道の無い山域 ※読図の必要な山域でのテント山行 1, 2, 3, 4, 5 6、サバイバル技術 ビバーグとツェルト 8、天気の見かた 観天望気の実習（春、夏、秋） 9、山中2泊3日の山行の計画立案と実施（無積雪期） 10、山岳環境の知識と啓発実習（環境保全知識と行動） 23	白峰南稜 水無峠山～青蘿山～池の平～無岳尾根
第13回 10月29~30日 1泊2日		徒歩道、登山道の無い山での登高 ※ルート設定の方法 自然保護・安全管理での留意点 読図・古道歩き ※陸測図についての知識 古道歩きの注意点 2, 3, 4, 5, 6, 7、応急処置と救助の実習 8、天気の見かた 観天望気の実習（春、夏、	青木ヶ原樹海～ 大室山 中道往還・関原 峠～迦葉坂

		秋) 10、山岳環境の知識と啓発実習（環境保全知識と行動） 26、自然ガイドの四季を通じて解説技術 27、自然に特徴のある里地、里山でのガイド（湿地、特異な植生、特殊な地質、地形など）	
第 14 回 11月 12～13 日 1泊 2日	アドベンチャーツーリズム 13 積雪期対応技術 1、2 26 雪山の安全管理 1、2 読図・地形解読 応用編 4 ガイド商品の企画・計画立案の方法と注意点 1、2 ガイドのコミュニケーション論（異文化コミュ） アドベンチャーツーリズムの考え方	初冬の低山歩き 1、登山道の歩行とガイドィング基礎 3、歩行時における安全対策 5、リーディング 8、天気の見かた 観天望気の実習（春、夏、秋）	高島・比良（赤坂山 or 武奈が岳）
第 15 回 12月 4～5 日 1泊 2日		初冬の山での安全管理 ※環境負荷に係る諸問題 13、積雪期登山のルートガイドィング 14、雪洞ビバーク 15、スノーシュー使用時の安全対策 16、低体温症、凍傷の防止対策 17、山中 1 泊 2 日の山行の計画立案と実施（積雪期） 18、雪崩地形の把握実習 19、雪崩対策基礎 20、積雪期の安全配慮技術	安達太良山 くろがね小屋（平日）
第 16 回 12月 17～18 日 2日間	国際マウンテンリーダー資格研修 ①UIMLA・IML 資格と活動（概論） ②海外活動に必要な知識-1 地図・宿泊・運送関連情報 ③海外添乗業務 Tips ④海外活動に必要な知識-2 気象・雪崩情報 ⑤救助システム研究 救助要請プロセス ⑥2 泊 3 日のツアー計画立案 ⑦IML 活動と外国语コミュニケーション ⑧インバウンド対応 ⑨レポート		オンライン講習
第 17 回 2023 年 1月 14～16 日 2 泊 3 日		積雪期の登山 ※積雪期の安全管理 ※ラッセル・ルート設定 13、積雪期登山のルートガイドィング 14、雪洞ビバーク IML 資格関連実技 15、スノーシュー使用時の安全対策 16、低体温症、凍傷の防止対策 17、山中 1 泊 2 日の山行の計画立案と実施（積雪期） 18、雪崩地形の把握実習 19、雪崩対策基礎 20、積雪期の安全配慮技術	八ヶ岳 （しらびそ小屋 稲子岳・天狗岳）
第 18 回 1月 21～22 日 1泊 2日	ガイド業務実務実践 13 積雪期対応技術 1,2 26 雪山の安全管理 1,2 4 ガイド商品の企画・計画立案の方法と注意点 1,2 27 ガイド事業展開の実務概論 1,2 28 ガイドの営業・広告戦略概論 1,2		長野県
第 19 回 2月 4～5 日 1泊 2日		積雪期の登山 ※積雪期の安全管理 ※ラッセル・ルート設定 13、積雪期登山のルートガイドィング 14、雪洞ビバーク IML 資格関連実技 15、スノーシュー使用時の安全対策 16、低体温症、凍傷の防止対策 17、山中 1 泊 2 日の山行の計画立案と実施（積雪期） 18、雪崩地形の把握実習 19、雪崩対策基礎 20、積雪期の安全配慮技術	妙高山 坪岳
第 20 回 2月 17～19 日		積雪期の登山 ※積雪期の安全管理 ※ラッセル・ルート設定	北八ヶ岳 北横岳～雨池～縞枯山

2泊3日			
第21回 1泊2日 (日程調整中)		ファーストエイド研修2日間	長野県
第22回 3月10~12日 2泊3日		春の里山登山実習 1、登山道の歩行とガイドィング基礎 2、読図基礎 3、歩行時における安全対策 4、無積雪期のルートガイドィング 5、リーディング 8、天気の見かた 観天望気の実習(春、夏、秋) 21、低山、里山の解説主体のガイド技術 28、地域の歴史、地誌、風俗、民俗などのガイド	熊野古道伊勢道 or 朝熊ヶ岳古道

講習の有効期間

本登山ガイド育成学校の有効期間は2年間となっています。

初年度で出席できなかった講習は、次年度の同等の講習に振替、規定講習日数を満たすことができます。振替は、所定の所定の手続きに従い、申請を経て振替講習費として一講習につき、15,000円の追加費用を支払うことで受講できます。

1年間ですべての講習を受けられなかった場合は、この手続きにより受講を継続でき、翌年すべての講習を修了したのち、ガイド資格が認定されます。

受講費用の分割払い時の欠席、再受講、休学について

受講費分割払い時の欠席、再受講、休学は、次の通りとなります。

- 1) 分割払いでの1年間を通し納入が済んでいる場合は、上記と同様で一講習につき、15,000円の追加費用を支払うことで受講できます。
- 2) 分割払いでの前期のみを納入し後期を欠席・休学する場合は、翌年は、後期の講習費および1講習につき10,000円の追加費用となります。
- 3) 分割払い四半期の場合は、いずれの場合も四半期末払い分の講習費および1講習につき15,000円の追加講習費となります。

有効期限は、いずれも入校から2年間となります。但し、ケガ、病気、海外赴任など講習を受けられない事情が生じた場合、相談に応じることができます。

受講費について

本登山ガイド育成学校には、次の費用がかかります。

受講費 全 54 日間 898,000 円

受講費には講習費用、共通テキスト代、講師の配布する都度ごとのレジュメ、講師の諸経費、共同装備使用料などが含まれています。また、普通傷害保険料そのほか、講習修了証の発行も含みます。ただし、ガイド資格登録に関わる認定証の発行費用、登録費用は含みません。

本登山ガイド育成学校入校後、机上講習会場、実技講習会場までの交通費、食費、宿泊費は講習費に含まれませんのでご注意ください。また受講生が講習中、個人的に使用する装備代、通信費、飲食費などの費用も含みません。

・受講費の納入

原則一括払いになります。いったん納入された受講費の返還は原則として認めません。ただし特段の事情があり入校を辞退する場合、事情を鑑み一定の費用を差し引いて返還することがあります。

お支払いの期日は、申し込み後、3日以内にお願いいたします。受講費の納入を受けたのち、入校が認められます。

分割払いについて

分割払いも可能です。分割払いは、次の2つの方法があります。

1) 2回払い 受講費は、前期と後期の2回に分けて分割で支払う方法です。

前期納入分は、468,000円

後期納入分は、436,000円

前期の納入期限は、受講申し込み後3日以内。

後期の納入期限は、2022年9月20日まで

2) 4回払い 1期から4期に分けての分割払い

1期	265,000円	納入期限は、受講申し込み後3日以内。
----	----------	--------------------

2期	235,000円	納入期限は、2022年6月15日まで
----	----------	--------------------

3期	225,000円	納入期限は、2022年9月20日まで
----	----------	--------------------

4期	205,000円	納入期限は、2022年12月10日まで
----	----------	---------------------

お支払方法は、すべて銀行振り込みを通した現金払いとなります。クレジットカード、各種ローン等のご利用はできません。ご了承願います。

お振込銀行口座 三菱UFJ銀行 四谷支店 普通 1119029

名義人 公益社団法人日本山岳ガイド協会

ガイドとしての基盤を固めるために

ガイドにとっての基盤とは何か。ガイド技術、知識、経験もさることながら、業務がヒトに直接関わるサービスだけにその人間力も重要な要素となります。

登山ガイド育成学校では、職業ガイドとしての基礎教育、専門教育はもちろんのこと、人間性の質を問われるガイドという職業の特性として人間的力量をアップする教育指導をカリキュラムに盛り込んでいます。全部講習を修了することによってガイドとしての基盤を固め、速やかにプロとして活動できるよう育成いたします。

ガイドを生涯の職業として選ぶことができる技能を身につけます。

キャリア支援システム

また、本登山ガイド育成学校では、ガイド業務に就けるようにキャリア支援システムを設けています。在学中に学び積み重ねたことを生かしてどんなガイドになりたいか、その方向性、進みたい道を相談することができます。「ガイドになった後の将来への不安」や「仕事について」などもカウンセリングすることも可能です。

OJTへの参加

講習と同時並行してガイドの実践訓練である現場体験を OJT 「On-the-Job Training」 の取り組みとしてガイド経験を積むことができるよう態勢を設けています。OJT はガイドの実践を通じて業務知識を身につける育成手法で経験豊富なガイドが、実際の業務を通じて受講生の皆さんに知識や技術を計画的に伝えることで、講習やマニュアルだけではなかなか実践につながらない知識・スキルを身につけることができるの特長で実務への近道になります。およそ 15 日程度参加できる OJT を準備しています。

※ガイドの OJT は、ツアー登山、個人ガイドのサブガイドとして同行、ガイドの実際を学びます。実施時期は、9 月以降、講習の半分以上を修了してからの参加となります。

個人山行も充実

OJT と合わせて個人山行としてのチャレンジも 30 日程度取り組むように支援します。個人山行は、自ら企画立案することによってプランニング、計画性への実践が磨かれ、より完成されたガイドへと近づくことと確信いたします。

本登山ガイド育成学校は、即戦力としてのガイド育成を目的としています。ガイド資格認定後、速やかに職業ガイドとして業務に就けるようさまざまなガイド事業者にガイド業務への斡旋の手助けをいたします。

本登山ガイド育成学校では、1 年間で講習が 54 日間、それ以外に自主参加の OJT が 15 日間、個人山行が 30 日間となり、合計 99 日間の登山漬けの生活となります。年間約 3 分の 1 は山に出かけているということになります。もちろん、難しいとお考えであれば、OJT や個人山行はセーブされても結構です。数年かけて経験を積むというのも方法です。

ガイドは、経験が命です。

登山ガイド育成学校の講習で必要な装備一覧

●基本装備

☆印は工夫の範囲で、必携品ではありません。

品名	備考	品名	備考
リュックサック (40 リットル以上)	1(背負搬送の荷重に耐えられる強度のもの)	水筒(真水を含めること)	1
防水スタッフバック	適量(ザック内の全装備を入れられる容量のもの)	保温ポット	1
ツールナイフ	1	行動用食糧	必要日数分
サングラス	1	ビニール袋	適量(ごみ処理用等)
ヘッドライト	予備も含めて複数	食器、箸、スプーン、フォーク等☆	1セット
ツェルト	1 (床 130×210cm 程度)	タオル	必要数
地図およびルート図	地図は 1/25000 のこと	トイレットペーパー	必要量
時計	1	筆記用具	1
プレートコンパス	1	日焼け止め等☆	1
高度計	1(腕時計タイプで可)	虫刺され薬等☆	1
ファーストエイドキット	1(熱中症対策も忘れず)	洗面用具☆	1
テープリングテープ	1(38mm幅)	健康保険証	1(コピー可)
バーナー&燃料+クッカー	1 セット	ガイドに相応しい服装	適量
ライター	1	トレッキングシューズ	1
ストック(トレッキングポール)	1セット(顧客の非常時用)	レインウェア	1(透湿防水性のもの)
ホイッスル	1	宿泊施設での着替え☆	適量
地域のガイド用資料	適量(図鑑・観察用具等)	折りたたみ傘☆	1

●無雪期専門装備

品名	備考	品名	備考
クライミングロープ 30m	1	皮手袋(ロープワーク用)	1 双
安全環付カラビナ (1枚は、HMS)	3	登山用安全ベルト (ハーネス)	1
カラビナ	2	登山用ヘルメット	1
ソウンスリング 150~180 cm	1	スリーピングバッグ (三季用)	1
ソウンスリング 120 cm	2	テントマット	1
ソウンスリング 60 cm	2		

●積雪期専門装備

品名	備考	品名	備考
冬季登山に相応しい服装	一式	オーバージャケット	1
冬季用登山靴	1	オーバーパンツ	1
スノースコップ	1	バラクラバ	1
ストック（雪用リング着用のこと）	1	オーバーゲーター	1
ピッケル（縦走用）	1	グローブ（薄手）	1
アイゼン（12 ポイント）	1	グローブ（厚手）	1
スノーシュー	1	グローブ（フリース）	1
雪崩ビーコン	1	オーバーグローブ	1
プローブ	1	ゴーグル（サングラス）	1
スノーソー	1		

国土地理院 2万5千分の一地形図について

各講習で使用する国土地理院 2万5千分の一地形図は、事前に指定しますので各自購入してください。